

インフルエンザウイルス A 型罹患後に器質化肺炎を発症し病理学的に診断した 1 例

福田 滉仁<sup>(1)</sup>，四方田 真紀子<sup>(1)</sup>，橋本 佳奈<sup>(1)</sup>，細見 幸生<sup>(1)</sup>，比島 恒和<sup>(2)</sup>，岡村 樹<sup>(1)</sup>

(1)がん・感染症センター東京都立駒込病院 呼吸器内科

(2)同病理科

## 要旨

多発性骨髄腫に対する治療中にインフルエンザウイルス A 型に罹患し，その後器質化肺炎を来した 1 例を経験した．症例は 65 歳，男性．インフルエンザ診断時に，細菌性肺炎の合併を疑い抗菌薬を投与したが，両側浸潤影を伴う呼吸不全が進行したため気管支鏡検査を行い病理学的に器質化肺炎と診断した．

インフルエンザウイルス罹患後に器質化肺炎と診断された報告はあるが，画像や診断的治療により診断された症例も多い．本症例は病理学的にインフルエンザウイルス感染後の器質化肺炎を診断し，治療したため報告する．

キーワード

肺炎，インフルエンザ A 型，器質化肺炎

Pneumonia, Influenza A virus, organizing pneumonia

短縮タイトル：病理学的に診断したインフルエンザ後の器質化肺炎